



「豊かさ」の先に



私たちの生活は昭和30年を過ぎたころから、大量にモノを消費する生活に変化しました。あらゆる製品を安価に手に入れることができるようになり「豊かさ」を手にすることができた一方、作りすぎた食べ物が捨てられたり、まだ使うことができるモノを捨てたりするなど、豊かさから生まれた様々な問題を抱えています。私たちが住む対馬は、自然の「豊かさ」だけでなく「豊かさ」が生んだ問題とも向き合っています。

私たちに、たくさんの豊かさを与えてくれる海には、毎日多くのごみが漂っています。



対馬に押し寄せる、漂着ごみ

国境の島である対馬は、国内外からあらゆるごみが流れ着いています。

特に、網や釣り糸を始め漁業に使われたモノから、ペットボトルなど生活の中で出たプラスチック類は、自然に還ることなく海岸を埋め尽くしています。対馬に流れ着くごみの量は、年間で2万㎡ともいわれています。



海岸に流れ着く大量の漂着ごみ

終わりのない回収作業

対馬市では、合併前の平成13年度から、上県町で漂着ごみ回収事業を開始して以降、現在まで、多くの漂着ごみを回収し処理してきました。現在、全島規模で回収が行われ、毎年1万㎡ほどを回収していますが、回収してもすぐに新たなごみが流れ着く状況が続いています。また、対馬にどのようなごみが流れ着いているのか、市内各地の海岸で調査が行われています。

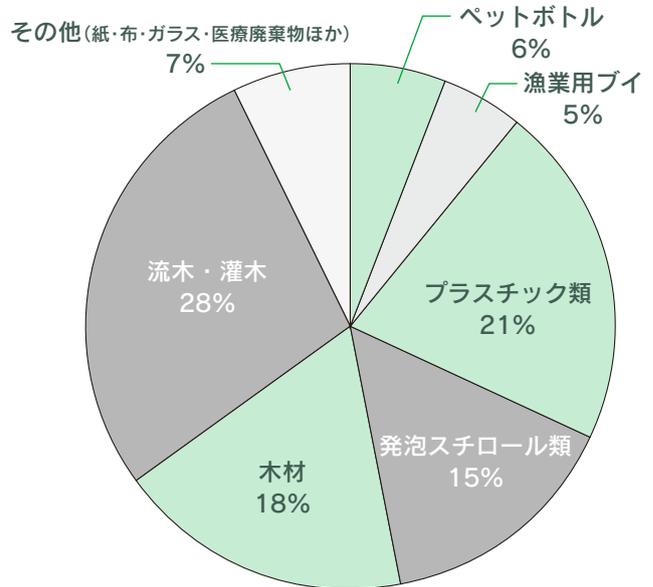


地域の人たちも参加しての回収作業



回収された大量の漂着ごみ

漂着するごみの種類



モニタリング調査は、市内数か所の海岸で行われており、一定の範囲内でどのようなごみが流れ着いているのかを調査しています。近年の調査では、発泡スチロールなどの人工物が、全体の7割以上を占めていることがわかっています。

世界中を悩ませる漂着ごみ

漂着ごみは、対馬だけの問題ではなく、世界規模の問題に発展しています。プラスチックのごみは世界中の海を漂っていて、人が住んでいる地域だけでなく、北極や南極の海でも確認され、誤って食べた動物などが被害にあっています。

また、海流や紫外線の影響で、細かく砕かれてしまったプラスチックを「マイクロプラスチック」と呼び、自然や生物への影響が危惧されています。





日韓の市民が一緒になっての海岸清掃

日韓合同で漂着ごみについて考えています

いつ終わるともわからない漂着ごみ問題。現在、市内では、多くの市民が海岸を清掃しています。また、対馬の海岸に韓国のごみが流れ着いていることを知った韓国の人たちが、18年ほど前から地域の人たちと一緒に海岸清掃を始めました。

その活動をきっかけに日韓の市民で海岸の清掃を行い、どのようにしたら漂着ごみが無くなるのかを考え、話し合う「日韓市民ビーチクリーンアップ」を実施しています。

対馬の高校生らが韓国へ「日韓交流海ごみワークショップINプサン」

今年1月、対馬の高校生が韓国釜山を訪問し、現地の海岸を視察したり、どのようにすれば漂着ごみを減らし、無くしていくことができるのかを話し合いました。

話し合いの中では、海ごみを減らすために「使い捨ての商品を売らない」や「プラスチックを使った釣具を制限する」といった提案から「清掃に参加するなどして、もっと海ごみのことを知るべき」などといった声も上がりました。

※海ごみとは、漂着ごみ・漂流ごみ・海底ごみの総称です。



対馬高校1年 永留 悠大さん
韓国の人たちと交流すること、そして海ごみという共通の問題について議論ができたことは、ごみについて考えを深めるよい体験になりました。これを機に、より良い環境を作ることができるように行動していきたいです。



海ごみをテーマに話し合う日韓の学生たち

対馬から新たな取組も始まる

様々な問題が山積みになっている漂着ごみ。対馬では、この問題を解決していこうという新たな取組が始まっています。その1つが、海にかかわる人たちや海ごみに関することをつなぎ合わせ、問題を解決していこうという団体の誕生です。

そこで、対馬CAPPAでは、対馬に美しい海を残して行くため、市民や行政、企業などをつなぎ、協力してこの問題に取り組んでもらえるような取組を行っていきたく考えています。残念ながら、この問題を解決するにはどのくらい時間がかかるかわかりませんが、海と親しみながら、この問題についてみんなで考えていけるようにしたいと思っています。

海ごみの問題は、知恵と心がなければ解決しないと私は思います。あきらめずに、少しずつでも前に進めるような取組を行っていきたく思います。

私は、25年前に対馬に帰って来て、シーカヤックと出会い、対馬にはとても素晴らしい自然があることを再発見しました。それと同時に、海岸には大量の漂着ごみが押し寄せていることも知り、ボランティアでの清掃活動や、シーカヤックを体験する人たちに、その状況を知ってもらう取組をやってきました。

しかし、海ごみの問題は、個人や市といった個々の組織では、とても解決にむけ動くことはできません。



一般社団法人 対馬CAPPA 理事長 上野 芳喜さん

漂着ごみはどこから？

漂着ごみは、海に直接捨てられたモノや山に捨てられたモノが大雨などで川に流れだし海に広がるなど、様々な理由で発生します。対馬には島の周りを流れる海流によって、韓国・中国・ロシア・インドネシアなど色々な国のごみがやってきます。

しかし、世界中で問題になっている漂着ごみ。太平洋側の国には、日本語が書かれたごみが多く見つかっていることも事実です。

対馬の山を見てみると…

道路沿いの山影を見ると、いたるところにごみが落ちています。空き缶やレジ袋、弁当の空き容器から布団や家電製品に至るまで、たくさんのごみが、今も捨て続けられています。

このようなごみは、大雨や台風などが原因で流れ出し、やがては海へと向かいます。世界中の人たちの「ちょっとだから捨ててもいいだろう」という軽い気持ちが積み重なり、対馬の海を覆うごみになったとも言えるのではないのでしょうか。



一人ひとりが、ごみについて意識を持ってほしい

対馬では今、海と同じように、住宅地から離れた山林などに、たくさんのごみがあります。私たちの生活の中で出たごみです。人目に付かなければ、誰もいなければ捨ててもよいのでしょうか？どうか、対馬を、自分たちが住む地域のことを意識していただきたいと思います。世界中の人たちが、自分の住む地域を美しくしたり、生活の中でごみのことを考えたりすれば、漂着ごみも減っていくのではないのでしょうか。まずその一歩が、私たちの生活の中にあるのではないかと私は考えています。

この30年ほどで、対馬には大量のごみが流れ着くようになり、子どもの頃に遊んだ海の姿とは大きく変化しました。漂着ごみの回収作業に携わり、きれいになった海岸に、すぐにごみが押し寄せている状況にショックを受けています。そんな中、多くの市民の皆さんが、ボランティアで回収に参加していただいていることは大変ありがたく感謝しています。今後も、国や県の支援を受けながら、きれいな海を取り戻す取組を行っていきます。



本当の豊かさを取り戻す

私たちが築いている社会は、便利で手軽なモノにあふれ、確かに豊かではあります。しかし、そのことで生まれたごみが、私たちの住む対馬に押し寄せています。私たちが求めた豊かさによって、本来対馬が持っていた自然などの豊かさが失われようとしています。

対馬の外からやってくる大量の漂着ごみは、今や世界中の問題として考えられています。その中で私たちに何ができるのかを国を超えて一緒に考え、本来あるべき豊かさを取り戻すときに来ているのではないのでしょうか。